

旅の本屋

神保嘉寛 千葉尚志

エディター 佐藤山葉

「もっと気楽に旅をしてほしい」そう話すのは東京の西荻窪に旅の本屋「のまど」を営んでいる川田正和さんだ。店の入り口でまず客を迎えるコーナーには、週末でもいけるアジア諸国の魅力を書いた本が多く並んでいた。

旅の本屋は海外では珍しいものではなく、それを求めて多くの旅好きが集まる。さらに、旅好きの人の交流の場にもなっている。旅の本屋は本を探すだけではなく旅の相談もできるフレンドリーな空間だ。しかし、日本人の多くは旅の本屋について聞いたことがないだろう。川田さんはそのような珍しい本屋を日本で経営している。

川田さんが旅の本屋に出会ったのはニューヨーク・イーストヴィレッジだった。日本にない文化を感じ珍しく思っていた。その後のヨーロッパ旅行の時にも似たような本屋を見つけ、そこから旅の本屋への道を歩み始めた。そして、2007年から旅の本屋「のまど」を西荻窪で経営し始めたという。

店内は国や地域ごとに整理された本が新品・古本に関係なく並べられている。各地方の民族衣装を伝える本や高校の地図帳、地球儀、開けば大きな帆船が浮かび上がる子供向けの絵本もある。もちろん一般的なガイドブックも置いてあるが「のまど」では、有名な都市に関する本もさることながら、沖縄やバスク地方、ケルトなどの魅力を伝える本も多い。店内は本の独特のにおいで包まれているが、オレンジがかかった暗めの照明は、煌々とした大型書店とは異なり、むしろ喫茶店や雑貨屋のような雰囲気だ。

川田さんのポリシーは本のジャンルとは関係なしに「旅」を感じさせるものを提供することだ。つまりただ景色を見たり食べ物を食べるのではなく、現地の文化に触れ、コミュニケーションを楽しむ旅を助けてくれる本を紹介することだ。そして、川田さんは「のまど」を通してそうした旅に触れてもらいたいと切望している。実際、「のまど」には、いわゆるガイドブックよりもその国の食、衣装、風習など、1点に焦点を合わせた本が多く並ぶ。

「言葉を完璧に話す必要はない、大事なのは色々な人とコミュニケーションをとることだ」と川田さんは言う。日本人の語学に対する考え方を変える必要があると考えている。

年々旅行者数は増加している一方で、川田さんはもっと若者が積極的に旅行に行ってほしいと考えている。

編集後記

今回の取材はとても充実したものでした。

川田さんからたくさんの事を学び、旅の大切さを知りました。

神保

並んでいる本や川田さんの言葉から彼の旅行の好みがよくわかった。総合的な本屋が日本では一般的ではだが、こうした本屋があることを知って驚いた。旅行に行く際には単に本を買うだけでなく実際にそこに行った人に話を聞いてから行くのも面白いのではないだろうか。

千葉